

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松成子 / 同行調査員 竹下公子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について話し合い、なじみの環境で暮らすにつづけることを支えながら、地域との関わりを大切にしてきており、地域密着型サービスとして事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をわかりやすい所に掲示している。全員で毎朝唱和して、理念を共有し、理念にそったケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人クラブや毎月1回のいきいきサロンに参加している。地域の人々が野菜を持ってきてくれたり、小学生や幼稚園児との交流や、ボランティアの訪問も受け入れ、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について管理者、職員全員で話し合い、意義を理解し評価に前向きに取り組み、サービスの質向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組み内容など報告し、話し合いの中で意見や要望を受け、サービスの質向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に日頃から事業所の運営やサービスについての課題など相談し、助言等して貰っており協力関係を築いている。介護相談員の受け入れや介護支給品などの件で連携も取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時のほかホーム便りを年4回発行し、入居者の日頃の様子や暮らし振り・行事の様子など報告している。病院受診のときは随時連絡している。金銭は預からず必要な支払は立替を行い利用料と一緒に請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情について重要事項説明書に明記し、入居時に説明を行っている。面会時に話を聞いたり、運営推進会議に家族代表にも参加してもらい、意見・苦情・不満を表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため異動はないが、やむを得ない離職はあるため、新しい職員には日勤を1ヶ月してもらい、夜勤は二人体制でスムーズに仕事や入居者になれてもらうよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、段階に応じた研修に参加する機会を確保している。月1回勉強会も実施し、職員の質の確保・向上に努め、資格取得にも勤務変更などして積極的に協力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加し情報交換など行っている。同業者間で課題について、相談したり、助言や方法を教えてもらい、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、入居者や家族に見学をしてもらい、面談で入居者の性格や趣味など情報収集を行い、馴染めるよう工夫している。入居のお試し期間を設け利用者や家族の不安などにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩であると認識し、いろいろな職歴や生活歴など理解し、食事やお茶の時間など会話の中で教わる姿勢を持っている。梅干作りや、そば打ち、野菜作りなどを通して支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、声掛けを心がけ、一人ひとりの訴えやつぶやきを聞いて思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方は態度や様子で気づくよう心がけ、家族からの聞き取りもしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聞き、主治医や職員と話し合い、その人らしい暮らしを支える為の具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書にもとづいて評価を行い、計画を見直している。状況変化があった場合は随時見直しを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族と話し合い、病院受診や通院介助、理・美容院の利用を支援している。系列のデイサービスセンターのリハビリ用具を利用しリハビリを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で協力医が主治医になっており、24時間体制で緊急時に対応でき、週1回往診に来てもらっている。病状によっては他の病院を受診できるよう支援し、受診後は家族に結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状態変化時に、重度化や終末期について本人・家族・主治医と連携を取り、事業所として出来る事を説明し、最善の対応が出来るよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切にする理念にそって、穏やかな声掛けやゆったりとした態度で対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせて、状態や思いに配慮しながら入居者のペースで生活できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いたり、畑でできた野菜を利用して献立を決め、下ごしらえや盛り付けなど利用者と共に行い、さりげなくサポートしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきの入浴日を決めているが、要望があればいつでも入浴できる。時間も入居者に合わせ柔軟に対応し、楽しく入浴してもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの趣味や出来る事を把握し、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜作りなど役割として、また楽しみごととして支援している。将棋、ピアノ、フラダンス、ちぎり絵など趣味も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩やベンチでのお茶などホームに閉じこもらない工夫をしている。近くの神社への初詣、季節の花見やソーメン流しなどドライブを兼ねて出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけないケアの重要性を認識し、鍵はかけず出入りは自由に出来る。外出したい様子が見られる場合はセンサーを利用し安全に過ごせる工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と協力し、避難訓練は定期的実施している。救急救命の講習も受けており、マニュアルも見やすく工夫している。運営推進会議で地域の方にも協力を依頼している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は刻みや一口大など工夫し、食事量は記録している。協力病院の栄養士に献立についてアドバイスをもらっている。水分摂取量は心がけて摂取を勧め、主治医の指示や体温変化時にはチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに天窓があり、明るい雰囲気である。日差しはカーテンやよしずで調整し、ホームには季節の生花を生け、入居者の手作り作品を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンスや椅子、衣装ケースなど持ち込み、又、神棚や遺影、大切にしている人形なども持参し、安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。